国際協力セミナー第 29 回

学生インターン報告会

講演者：小川友里恵氏、松本　夏季氏

文責：　串田裕梨
草案作成：　小宮山恵理、本田ゆみ
奥田美里、田中千裕
山口文子

講演者：小川友里恵氏
派遣期間：2011 年 1 月 10 日～7 月 10 日
派遣先：Organization for Economic Co-operation and Development パリ本部
（OECD: 経済協力開発機構）

小川友里恵氏は OECD でインターンを行った。講演の冒頭では、OECD の組織の特徴や形態について説明がなされた。続いて、インターンでの業務内容や達成できたこと・反省点について、詳しく話をされた。インターン派遣時、毎年開催されている OECD フォーラムがちょうど 50 周年にあたっていたことで、氏はそれに関連した業務に多く携わった。インターン派遣後、国際機関は雲の上の存在ではなく、将来の選択肢の 1 つとして考えるようになったという。

<u>OECD について</u>

OECD は、先進国間の自由な意見交換・情報交換を通じて、①経済成長（持続的な成長の支持・金融の安定化等）、②貿易の自由化　（世界貿易の成長への貢献）、③途上国の支援　（雇用の拡大・生活水準の向上・他国の経済発展の支援）の三大目標を達成することを目的に設立された。公用語は英語とフランス語である。現在は 34 カ国が加盟しており、加盟国の人口総数は、世界人口の 18%ほどにもかかわらず、GNI の 69%、世界貿易額の 60%、CO2 排出量の 45%を占めるなど影響力の大きい国々が集まっている。

組織形態

OECD の運営を主に支えているのは以下の 3 つである。

①Council（OECD 閣僚理事会）
理事会には OECD 加盟国及び EU 加盟国が参加している。毎年一回開かれ、OECD の優先課題を議論し、コンセンサスを決定する。
② Committees（委員会）
委員会には OECD 加盟国が参加している。経済・貿易・雇用・教育など 250 の委員会があり、各々、詳細事項の決定及び実施状況の報告をする。
③Secretariat（事務局）
事務総長を中心とした事務局が、加盟国との橋渡しをしている。

勤務部署・業務内容

勤務部署は Public Affairs and Communication Directorate と Public Affairs Division（広報局）であった。この部署は、OECD が政府関係者、企業、一般社会、NGOs と協調していくための中心的役割を果たしており、協議の場の調整や、メディアを通じての幅広い情報発信をしている。主な仕事は、年次報告書や隔月誌などの出版物に関する仕事や、OECD フォーラムの企画準備に関わる仕事をした。OECD フォーラムはちょうど、50 周年にあたっており、フォーラム参加者の登録やフォーラム HP の編集・更新等、また、フォーラム後にはアンケート集計と参加者の統計作成にも精力的に関わっていた。他にも、メディア部の補助で、50 周年 OECD フォーラムの PR ビデオの作成、訪問プログラムやセミナーの企画運営補助を行った。

インターンの成果

インターンの成果としては、まず、国際機関の中身を知ることができた。また OECD 職員や日本政府代表部、フォーラム参加者等との人脈形成を築け、あらゆるキャリアパスについて知ることもできた。インターンを通して、英語・フランス語の語学力の向上および、それらを使っての職場でのコミュニケーション能力の向上を図ることができた。

インターンの反省点

インターンで達成出来なかった点は、他局の仕事内容への深い理解が得られなかったことやリサーチの仕事を経験出来なかったことが挙げられる。インターンの内容を研究内容に還元することも難しかった。フランス語に関してはビジネスフランス語へのレベルアップまでには及べなかったことがある。

インターン前後での国際機関に対する心境の変化

インターン派遣によって自分の足りない部分や、多国籍な職場で切磋琢磨する面白さに気づけた。派遣前は雲の上の存在だと感じていた国際機関勤務を、進路の選択肢の 1 つとして明確に考えられるようになった。

講演者：松本　夏季氏
派遣期間：2011 年 4 月 28 日～6 月 30 日
派遣先：Office of the High Commissioner for Human Rights
（OHCHR : 国際連合人権高等弁務官事務所）

松本夏季氏は、OHCHR でインターンを行った。まず、冒頭で OHCHR の説明をした後、インターン派遣について、自身の経験や考察が、詳しく語られた。氏は、ILO や UNHCR など多くの国際機関が集まるジュネーブでインターンを行うことで、幅広い人脈が築け、国際機関で働くことへの理解を深めた。氏は国際公務員職に対して、高校生の頃から漠然と興味を持っていたが、インターンを通して、より具体的に目指そうと考えるようになったという。

OHCHR について

OHCHR は、人権概念の促進を目的として設立された国連機関である。国際人権法のモニタリング機関として、主に、人権に関わる国際協力や、国際基準設定の促進を行っている。また、人権状況改善の為に、政府や国連機関、市民社会と協力しつつ、トレーニングや司法分野支援、人権条約の批准推進等も行っている。現在、ジュネーブ、ニューヨークなど 11 のカントリー・オフィスと 7 つの地方オフィスがあり、フィールドでの活動も拡大しつつある。

Right to Development について

Right to Development とは、経済的・社会的・文化的・政治的発展による利益を享受する権利であり、これは全ての人、集団が有している基本的人権である。先進国のみが発展による利益を享受するのではなく、途上国にもその利益を享受する権利がある。そのため、先進国は途上国の発展を支えていくことが必要となってくる。2011 年は特に、Declaration on the Right to development (発展の権利に関する宣言)採択から 25 周年にあたり、Right to development への注目が高まっている。 松本氏は Research and Right to Development Division に配属されていた。

インターンとしての業務内容

松本氏は Right to Development Section において、リサーチ補佐やイベント補佐の他、「発展の権利に関する宣言」採択２５周年に関連するイベントの準備を行ってきた。

また、８月からはこれらと平行して、MDGs セクションのリサーチ補佐としても配属され、各国レポートの内容要約、議事録の作成などを行った。

生活全般について

国際連合本部付近のアパートを借り、３人でルームシェアをして生活をしていた。家賃は毎月 800 スイスフラン、食費は自炊で 200 スイスフラン程度であった。週に１回フランス語レッスンに参加した他、学業や就職活動はもちろん、週末は、散歩やサイクリングをしたり、地域のイベントへ参加をしたりして過ごした。

インターンの成果

まず、実際に国際機関で働くことで、その内情を知ることができた。仕事は英語中心であり、フランス語も同時に使われていたことから、英語・フランス語の能力の向上を実感できた。また、OHCHR だけでなく、ジュネーブには ILO や UNHCR などの他国際機関もあり、その職員の方や、日本からきている外交官や政府代表部の方などから、キャリアや修士論文に関して話を聞くことができた。さらに、そういった人達や、他から派遣されているインターン生たちとの幅広い人脈を形成することができた。

インターンの反省点

反省点としては、インターンと平行して修士論文の執筆や就職活動がうまく進まなかったこと、より高度なレベルのフランス語能力を習得できなかったことが挙げられる。

インターン前後での国際機関に対する心境の変化

高校時代から国際公務員として働くことに興味はあったが、具体的なその職への就き方がわからないこともあり、大学進学後は本当に国際公務員になりたいのか疑問を抱くこともあった。しかし、インターンを経験して、国際機関への就職には、様々な道のりがあることを知り、諦めずに国際公務員を目指そうと思うようになった。また、実際に国際機関で様々な人と出会って分かったことが、国際機関には合う人合わない人がいるということだ。合う人は、一言でいうとピンチを楽しめる人だ。国際機関勤務においては、キャリア形成は自分自身で探っていかなければならない。そのため、周囲の人との競合などで大変なことも多いが、諦めずにそのような困難を楽しめる人が国際公務員には向いているだろう。

今後の進路の方向性

長期的な目標として、平和構築・人の移住の問題に関わりたいと考えている。まずは、青年海外協力隊や NGO、現地事務所のインターンなどを通して、早期にフィールドでの経験を得たい。また、広い視野を獲得すると同時に、フランス語やスペイン語などの

言語力の向上にも努め、専門的知識も深めていきたい。目下のところでは、日本企業やNGO への就職、あるいは国際機関や NGO へのインターンを検討している。JPO 派遣制度や国連競争試験への挑戦、平和構築人材育成事業にも興味を持っている。